

第17期  
「京都教師塾」

令和4年11月26日

## 学びの広場

November

京都教師塾通信

No.4

京都市教育委員会 教員養成支援室

### 第3回京都市教育学講座 若手教員6名によるパネルディスカッション 「教師の喜びと厳しさ」



第3回は、京都市の小学校、中学校、高等学校、総合支援学校で、また、養護教諭、栄養教諭として活躍されている採用2年目から4年目の若手教員によるパネルディスカッションを実施しました。「教師の喜びと厳しさ」をテーマに、教師塾生にとっては先輩にあたる先生方の具体的な実践や学校現場で働く上での思いや考えについて、熱意あふれる言葉をたくさん聴くことができました。例えば、教師の楽しさや面白さ、または難しさや苦

労についての話題になると、「教材研究は大変だが、学習内容を理解できたり、課題を達成できたりしたときの子ども笑顔を見ることが、最高の喜び」「子ども一人一人に応じた最適な支援を探ることが、難しさであると同時に面白さでもある」といった意見が出されるなど、教師という仕事の奥深さについて、先生方の語りから学ぶことができました。また、同僚や保護者との共働の大切さや、時間管理をはじめとするワークライフバランスについての工夫など、幅広い視野をもって職務に励むことの大切さも教えていただきました。

分散会では、パネリストの6名とも各会場を巡回していただき、「よりよい授業をするための手立て」や「教師を志す上で今取り組んでおくべきこと」など、塾生からの多様な質問一つ一つに対し、誠実かつ丁寧に応えていただきました。

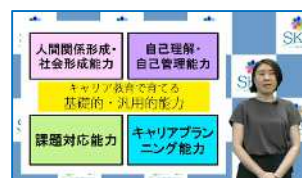


### 第2回特別講座 講師:京都市教育委員会 生き方探究館 葉山 みどり 指導主事 「生き方探究(キャリア)教育のねらいと実践」



第2回は、京都市教育委員会生き方探究館の葉山みどり指導主事に、生き方探究(キャリア)教育についてご講義いただきました。子どもたち一人一人の「社会的・職業的自立」、社会において自分の役割の果たしながら「自分らしい生き方を実現すること」など、生き方探究(キャリア)教育のキーワードについて解説するとともに、各種調査に基づく子どもの学力の分析や現代社会で求められるスキルについても言及しながら、なぜ今、キャリア教育が必要なのかという点について、分かりやすく話していただきました。

また、講義の後半では、キャリア教育で育む4つの「基礎的・汎用的能力」についてのお話がありました。これらの能力はそれぞれ独立しておらず相互に関連・依存した関係であること、学校や地域の特徴、子どもの発達段階やそれぞれの課題を踏まえて、教科横断的な視点を持ちながら具体的な能力を設定することなど、実際の授業実践を想定した内容から、キャリア教育の大切さを学ぶことができました。



## 仲間のレポートに学ぶ

1組

### 第3回京都市教育学講座【パネルディスカッション】 「教師の喜びと厳しさ」を受講して



今日のパネルディスカッションの中で、子どものできないことよりできることに目を向けるというお話がすごく印象に残りました。グループの中でも議題が上がってましたが、どうしても支援が必要な点、できない点に目がいきがちになってしまうので、子どもを見る視点を私が変えないといけないと感じました。学校ボランティア先の先生が、「友だちの素敵なおところをたくさん知っている人は、自分が素敵なお人だから」という事を伝えられてたのを思い出しました。私が教師になった時は、誰よりも子どもたちの素敵なおところを知っている人になりたいと思います。そして、一人一人の素敵なおところをみんなで共有することで、子どもたち同士も、相手のできないことなどマイナス面を見るのではなく、頑張っていることやすごいことを認めあえるクラスになるのかなと考えました。ほめ合って、認めあえる環境が作れると、パネリストの中のお一人が言っておられたキラキラ輝く先生、そして、キラキラ輝く子どもたちになれるのかなと思いました。できないこと、苦手なことを支援するのももちろん重要ですが、一人一人の得意なことを伸ばしていくことも、個に応じた教育につながると気付きました。子どものプラス面を見つけるためにも、パネリストの中のお一人が実践されているように、「一日に一回はクラスの子ども全員に話しかける」というのを私もやってみたいと思いました。一月には実地研修もあり、学校ボランティアもあるので、そういった機会に挑戦してみようと思います。また、お話の中にあった「学びたい」エネルギーをもつというのは大切だなと思いました。教師塾に行くのが楽しみだったと言われていましたが、私も毎回「今日はどんなことを学べるのかな」とワクワクします。他にも学校ボランティア先の先生の授業方法を勉強するのも楽しいと感じます。子どもが学びたいと思う授業にするには、教師が楽しく学び続けたいといけないなと思いました。きっと自分に楽しいと思えない学びは、子どもたちにとってもつまらないものになると思うので、私が学び続け、楽しいと思えるように工夫していきたいです。

6人の先生方の言葉の中に、心に響いたものがたくさんあったことがわかります。自分のこれまでの経験を改めて思い起こし、その意味を再確認できていることや、自分が今後目指したい姿が具体的に見出せていることから、教師塾を通してよい学びをしていることがわかります。その子のできそうなことを見極め支援することで、子ども自身が「わかった!」という喜びを積み重ねてほしいです。それをきっかけに、できないことにも少しずつ挑戦してくれるようになるでしょう。「キラキラした先生」、とてもいい言葉です。そんな先生が教室にいてくれるだけで、やる気が湧いてきそうです。目指してください!“一人一人を大事にしたい、育てたい”という思いが、レポート全般から伝わります。持ち続けてくださいね。



2組



3組



4組



5組



6組



7組



8組



補講(11/15)の様子



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で  
**京都市教育実践者**を实践しよう!

